

多様な経験 交わる学校

【インタビュー】 榎浦岳人 校長 伊奈学園総合高等学校

選択科目の多い普通科高校を打ち出し、2003年に中高一貫となって創立41年目を迎えた伊奈学。今年就任した榎浦岳人校長（59）は「多様性を求める地域の声にいち早く応じた公立校」と語ります。

193講座から自分だけの時間割を

——6つの校舎棟を「ハウス」と呼ぶのはユニークですね。

中学生も含めて公立では県下最大の2600人超の生徒が学んでいます。高校はふつうの公立の3倍以上の生徒を在籍させるので、複数の校舎棟を持ったそうです。教員は約240人います。高校は1学年20クラスの計60クラス。各12クラスで5つのハウス（校舎）に分けられています。ハウスと呼ぶのは「ホームルームを行う場所」という意味からです。本校は日本で初めて普通科に総合選択制を取り入れた学校で、2年生からは選択科目がカリキュラムの半分以上を占めます。同じクラスメートでも時間割はバラバラとなり、教室も違うので、休み時間は大勢の生徒がハウスを行き来します。クラスみんなで顔を合わせるのは朝夕だけなのもしばしばです。

——選択科目の多さ、多様さは開校以来の特色です。

193ある講座（必修23・選択170）は7つの“学系”に分けられます。スポーツ科学と芸術は入試時に決める学系ですが、「普通学系」も合わせて生徒全員がすべての学系から授業を選び取ることができます。1年次はみな必修科目をメインに学び、2年次からそれぞれのやりたいこと、学びたい方向に向かって各学系（人文・理数・語学・生活科学・情報経営・スポーツ科学・芸術）の様々な選択科目から時間割を作っていきます。語学はセルハイ（スーパーイングリッシュランゲージハイスクール）指定校だったこともあり、英語4技能を中心とした授業

ノウハウが豊富です。ドイツ、フランス、中国語もネイティブの先生から学べ、それぞれの海外研修（主に夏休み期間中に実施）も充実しています。情報経営のマーケティング、生活科学の保育実践、芸術（音楽、美術、工芸、書道）の専門的な科目など選択科目はとにかく豊富。大学で学ぶような高度な内容も多いです。校長になり半年ですが、伊奈学の生徒たちは本当に恵まれた学びの環境にあるかと驚かされています。体育教諭を目指した私の高校時代を振り返っても羨ましい。スポーツをすることの大切さを概論で学ぶ授業なんて、当時なかったですから。

何かを掴むチャンスある

——放課後のハウスで、クラスメートが個々の授業体験を語り合う光景が浮かびます。

「あの授業でこんなことがあった」という会話が生まれているのではないのでしょうか。生徒同士でいろんな個性に触れ、良い影響を与え、与えられる互惠関係をたくさん生みだしてほしいと願っています。

色んな人がいて良いという社会において教育に求められるのは「自分のやりたい」を追い求める力の育成だと捉えています。最近では探究学習を通じて多くの学校が実現を目指していますが、41年前から学校の仕



15代校長 榎浦岳人
久喜市生まれ。日本体育大卒。母校・春日部東高で体育教諭となり、長く現場で教える。県教育委員会、知事部局スポーツ振興課副課長などを経て2022年に県立三郷工業技術高校長。今年4月より現職。

組でもって生徒の自主性を促してきました。大学の偏差値に囚われず、多様で個性ある学びを学校に求める声は昔からあって、いち早く応じた公立校が伊奈学といえます。だから同窓会も心強い。先日はパリ五輪に出場した卒業生の太田りゆ選手（自転車競技）を招いた激励会も企画しました。陸上部から自転車に転向した太田選手の歩みに参加者の多くが刺激を受けていました。

やりたいことが明確な中学生と、そうした我が子の素養を大切に保護者たちに選ばれてきた傾向はあります。ですが将来に漠然としている中学生にこそ伊奈学の凄さを知ってほしい。なにかを掴むチャンスが伊奈学園にはたくさんあるはず。総合選択制が特色でも、普通科なので土台となる基礎の勉強はしっかりやります。9割以上が大学進学する内訳は、国公立や難関私大も多く、東京大学は6年連続で合格者を出しています。これは深めたい学問を見つけ、そのための進路に向けて頑張った先輩たちの努力の表れです。生徒の「やりたい」を引き出すために、授業のそこかしこで生徒の活躍の場を作る。そこに今、一番力を入れています。（聞き手・橋上賢太）